

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

しろいしの魅力発信・地域と文化の交流による新たな価値を創造する地域防災拠点 道の駅しろいし整備事業

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

宮城県白石市

### 3 地域再生計画の区域

宮城県白石市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

##### 【観光地としての魅力向上と満足度向上】

・本市の人口は、昭和30年の45,411人がピークであり、平成17年国勢調査において4万人を割り込んでからは、減少のスピードが加速し、近世以来の伝統ある中心市街地を有しながらもその衰退に歯止めがかからず、空き地や空き店舗が目立ち閑散とした状態となっており、令和2年には32,758人（令和2年国勢調査結果）まで落ち込んでいる。

・令和2年1月に本市のまちづくりに関する現況や問題点と将来像の意識を把握するため、一般市民と中学生を対象にアンケート調査を行ったところ、双方の世代において「観光施設の利用しやすさ」は、重要度が高く、満足度は平均より低い結果となった。

・本市には、白石城を始め、鎌先温泉、小原温泉、宮城蔵王キツネ村などの著名な観光地があり、本市の観光客入込数は令和元年には約119万人が訪れ、コロナ禍の影響により令和4年には約94万人となったものの横ばいで推移している。また、宿泊者数は、令和元年に約13万5千人が宿泊し、令和4年には約8万6千人となっており、減少傾向にある。

・本市を含めた蔵王地区（宮城県白石市、蔵王町、七ヶ宿町、川崎町）における令和4年主要観光地点別観光客入込数は、蔵王町刈田山頂（蔵王の御釜）で約30万人もの入込に対し、白石城では約1万2千人となっている。また、温泉地においては、蔵王町遠刈田温泉で約45万人もの宿泊者に対し、鎌先・小原・白石湯沢温泉では約5万3千人となっている。

・既に多くの観光客が集中する主要地点が近隣市町村に存在するものの、本市への周遊は限定的となっており、これらをどのように取り込むことができるかが課題となっている。蔵王地区（宮城県白石市、蔵王町、七ヶ宿町、川崎町）や宮城県南部を中心とする近隣市町村と連携し、（仮称）道の駅しろいしを出発点とした新たな周遊ルートの形成を図り、当該地域での滞在期間を延ばす環境づくりが課題となっている。また、白石城をはじめとする観光資源の積極的な活用策について、関係機関との連携による磨き上げの取り組みが必要である。

##### 【観光消費額の拡大】

・観光消費額の減少は、宿泊を伴わない観光客の減少及び宿泊者数の減少から推測することが可能である。

・本市の宿泊者数は、令和元年に約13万5千人が宿泊し、令和4年には約8万6千人となり、減少傾向にある。本市の令和4年観光客入込数は約94万人であることから、観光客の90%が日帰り客であり、通過型観光地であることが分かる。また、観光消費額は令和元年に約69億円であったものの、令和4年には約52億円まで落ち込んでいる。

・市内には「白石城」や「武家屋敷旧小関家」などの観光施設があるものの、中心市街地は空き地や空き店舗が目立ち閑散とした状態となっており、滞在時間を延ばす核となる施設が必要である。

・観光消費額を伸ばすために、日帰りでは満喫できない本市全体の歴史や文化を活用した観光コンテンツの磨き上げと効果的なプロモーションの推進、既存の観光客が集中する主要地点など、蔵王地区（宮城県白石市、蔵王町、七ヶ宿町、川崎町）や宮城県南部、福島・山形圏域をも巻き込んだ周遊ルートの形成や情報発信を積極的に行うことなどの創意工夫が求められている。また、本市での観光消費額を拡大させるため、宿泊を伴う観光客の増加を目指す必要があり、旅行

の目的地にもなり、かつ交流の拠点ともなる施設が必要である。(仮称)道の駅しろいしには、イベントや魅力的な商品・飲食物を提供できる機能を持たせること、さらにはスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる公園施設の整備が必要である。

#### 【(仮称)道の駅しろいしを新たな出発点とした周遊性の向上】

- ・本市には、白石城を始め、鎌先温泉、小原温泉、宮城蔵王キツネ村などの著名な観光地があり、本市の観光客入込数は令和元年には約119万人が訪れ、コロナ禍の影響により令和4年には約94万人となったものの横ばいで推移している。
- ・主要観光地点となる白石城・武家屋敷などでは令和2年に約5万人、令和3年には約4万5千人ほどの年間来館者があるものの、集客力は低い現状にある。
- ・毎年実施する定期的なイベント以外に、地域で企画検討を行う着地型観光などの新たなコンテンツの開発は進まず、加えて中心市街地は空き地や空き店舗が目立ち閑散としている状態となっている。鉄道駅のある中心市街地が出発点となっていたかつての賑わいは失われており、観光コンテンツ間の連携がなく各観光施設へ直接訪問する限定的な行動となっており、滞在時間の低下が課題となっている。
- ・(仮称)道の駅しろいしの整備を図ることで、民間企業による賑わいが創出される施設整備と、関係機関との連携による新たな観光コンテンツなどの提案により滞在時間を延ばし、地域全体の魅力を高める取り組みが必要である。

## 4-2 地方創生として目指す将来像

### 【概要】

- ・本市は南東北3県(宮城県、福島県、山形県)の各県庁所在地から約1時間圏内に位置し、国道4号線においては1日約13,000台もの車が往来する「南東北のへそ、宮城県南の玄関口」として高速交通ネットワークのハブ機能を担う立地や特性を有している。
- ・宮城県が策定する「仙南広域都市計画」においては、「都市圏連携軸」「工業・物流機能集積軸」が重なるゾーンに位置し、「ヒト」「モノ」「カネ」が行き交う「南東北の交流拠点」としての役割が期待されている。
- ・令和2年度に国土交通省より「(仮称)白石中央スマートインターチェンジ」の新規事業化が採択され、本市や宮城県南部を中心とする近隣市町村、特に本市を含めた蔵王地区(宮城県白石市、蔵王町、七ヶ宿町、川崎町)における新たな周遊観光の形成が期待されており、その出発点となる「(仮称)道の駅しろいし」と、スポーツレクリエーション活動が可能で防災機能を併せ持つ公園施設「防災公園」を、民間の資金と経営能力を活用したPFIにより一体的な整備を図る。

### 【観光・歴史・文化】

- ・市内には「白石城(市指定)」や「武家屋敷旧小関家(県指定)」などの文化財が点在しているほか、「鎌先温泉」「小原温泉」「白石湯沢温泉」の3つの温泉地、「弥治郎こけし」「白石和紙」「白石温麺(うーめん)」などの特産品がある。また、これらの文化財や温泉地といった地域の魅力発信、さらに、特産品の伝統を紡いでいくことが課題であることから、観光資源の魅力を発信、立地を生かした観光案内所の整備を目指す。
- ・歴史遺産や伝統文化の継承や継承に関する活動を通して、地域の歴史文化への関心を高め、市民のまちに対する誇りや愛着の醸成を図り、よりよいまちづくりにつなげる。
- ・様々な宣伝媒体を積極的に活用し、本市の魅力と観光コンテンツ情報の充実を図り、広く国内外に向けて発信する。
- ・ウィズコロナに対応し、訪れる側も迎える側も安心できる、新しい旅のかたちに合わせて受入環境を整備する。

### 【商工業・農業】

・白石三白（白石温麵（うーめん）・白石和紙・葛）にちなんで、白石三白野菜の白いトウモロコシ（ピュアホワイト）、白いカボチャ（夢見）、里芋（土垂芋）を新ブランド野菜とするため、平成28年度より高品質野菜の生産を推進している。高品質な農産物があるものの知名度が低いこと、近年の農産物出荷額が減少傾向にあるものの地元農産物のPRによる農業の振興が順調に進まないことが課題であることから、農産物の知名度向上やブランド化を図るため、高品質な白石の名物を求めることができ、地産地消をコンセプトとしたレストランの整備を図る。また、施設内に農産物直売所を設け、地産地消、新名物開拓の機会づくりを促進する。

- ・各直売所の魅力向上や販売拡大、直売所同士の連携を支援する。
- ・規格外農産物の有効利用や農商工連携による新たな商品開発を推進する。
- ・関係団体と連携し、賑わいのある商店街づくりの推進や特産品、伝統品の開拓振興を図る。

#### 【交通】

・市民生活の足の確保を図るため、道の駅に公共交通機関により直接アクセスできるような交通機能が必要であることから、交通結節点として施設の有効性を高めるとともに、市民などの生活の足の確保を図るための交通機能の強化を目指す。

・市民が利用しやすい市民バス、乗合タクシーの運行を継続するとともに、既存の公共交通では対応できない地域や高齢化のさらなる進展に伴う市民生活の足の確保のため、住民主体の移動・外出サポートの整備を図る。

#### 【人口】

・人口減少・少子高齢化が急速に進行する中、若い世代の移住定住の促進や交流人口・関係人口の増加、地域の活性化が重要視されており、子育て世代をはじめ、労働世代、高齢者などの多世代のニーズを満たし、かつ利用しやすい施設の整備が課題であることから、子育て世代が利用しやすいようなキッズルームや保育施設、施設の賑わい増進や市民の健康維持向上を図るため、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方々が集い、交流できる施設整備を目指す。

・安心して子どもを産み育てる環境づくりに向けて、妊娠・出産期からの包括的な支援の充実を図る。

・移住・定住を促進するため、各種情報提供の充実や生活体験機会の提供、暮らす人々の生活やヒストリーの紹介を通じて暮らしの魅力を発信するとともに、シビックプライドの醸成を図る取り組みを推進する。

#### 【教育・雇用】

・市民ニーズに応じた生涯学習・スポーツなどの講座開催に努めるとともに、意識啓発や効果的な情報発信、生涯学習施設の整備・充実を図り、市民が主体的に参加できる活動を促進する。

#### 【目指すべき将来像】

・全国的に人口減少が進む中、交流人口や関係人口による活力の創出が重要視されており、本市や宮城県南部を中心とする近隣市町村が持つ地域資源を最大限活用するため、本事業は新たな観光拠点の整備を図り、人が訪れ賑わいのあるまちづくりの再構築を進めるものである。

・PFIによる一体的な整備を行うことで、民間事業者の自由な発想と創意工夫によるイベントの開催や地域活性化による観光客の誘致、地域内事業者との連携による雇用の創出を目指し、観光客の増加と地域経済活性化の新たな拠点整備を図るものである。

・また、観光・歴史・文化・自然など、来訪目的が異なる各施設や地域における周遊性を高めることで、消費行動につながる観光客の満足度向上、滞在時間の延長、さらには宿泊観光（鎌先温泉4施設、小原温泉2施設、白石湯沢温泉1施設、白石温泉1施設、ホテル2施設、民宿1施設、ペンション1施設、キャンプ場2施設）へつなげることで、様々な産業による好循環の仕組みを構築するとともに、地域資源をフル活用し、まちの賑わいの創出と地域全体の魅力を高めるものである。

#### （整備効果）

・本市の観光客入込数は、高速道路利用の観光客の多くは、白石ICを経由して中心エリアに訪訪しているが、「IC位置が不便」との意見も多く、他の観光地へ周遊していない現状もあることから、SICの整備により、中心エリアへのアクセス性が向上することで、西部エリアや角田・丸森方面への新たな周遊観光ルートが形成され、高速道路を活用した仙南地域全体の観光産業の活性化が期待される。

・本市の中心市街地には、「白石城」や「武家屋敷」「ホワイトキューブ」「碧水園」などの文

化施設などが立地している。また、伝統食である「白石温麺」の飲食店も多く立地し、歴史・文化・食の中心地となっている。一方で、既存の白石ICは、中心市街地から北へ約6kmの蔵王町境に位置し、県内外からのアクセス性が低く、SICの整備により、中心市街地へのアクセスが高まることで、地域資源を活かした中心市街地への賑わいの創出や交流人口の拡大が期待される。

・本市の製造業は、全産業の約6割の売上高を占め、市内には自動車電子部品の世界シェア1位（約30%）の企業もあり、海外への出荷時は、東北自動車道を利用して運搬している一方、市内の製造事業所の半数以上が、一般道を使って国見ICまでアクセスしていることから、SICの整備により、東北自動車道へのアクセス性が向上するとともに、基幹産業である製造業の支援が期待される。また、周辺に新たな産業拠点を形成することで、企業誘致の促進や振興が期待される。

**【数値目標】**

| K P I ① | 観光消費額          |                        |                        |                        |                        |                        | 単位               | 百万円 |
|---------|----------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------|-----|
|         | 事業開始前<br>(現時点) | 2024年度<br>増加分<br>(1年目) | 2025年度<br>増加分<br>(2年目) | 2026年度<br>増加分<br>(3年目) | 2027年度<br>増加分<br>(4年目) | 2028年度<br>増加分<br>(5年目) | K P I 増加分<br>の累計 |     |
| K P I ② | 道の駅の年間利用者数     |                        |                        |                        |                        |                        | 単位               | 人   |
| K P I ③ | 道の駅の年間売上高      |                        |                        |                        |                        |                        | 単位               | 百万円 |
| K P I ④ | 観光客入込数         |                        |                        |                        |                        |                        | 単位               | 人   |
| K P I ① | 5,244.00       | 1,187.00               | 254.00                 | 254.00                 | 701.00                 | 197.00                 | 2,593.00         |     |
| K P I ② | 0.00           | 0.00                   | 0.00                   | 0.00                   | 1,000,000.00           | 100,000.00             | 1,100,000.00     |     |
| K P I ③ | 0.00           | 0.00                   | 0.00                   | 0.00                   | 560.00                 | 56.00                  | 616.00           |     |
| K P I ④ | 941,189.00     | 190,000.00             | 22,000.00              | 22,000.00              | 1,022,000.00           | 122,000.00             | 1,378,000.00     |     |

**5 地域再生を図るために行う事業**

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備タイプ（内閣府）：【A3016】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

しろいしの魅力発信・地域と文化の交流による新たな価値を創造する地域防災拠点 道の駅しろいし整備事業

### ③ 事業の内容

・地域住民や観光客の利便性や安全性を向上させ、全ての人が利用しやすい「(仮称)道の駅しろいし」を整備することにより、本市や宮城県南部を中心とする近隣市町村、ひいては南東北の「ヒト」「モノ」「カネ」が行き交う交流拠点としての機能を果たすべく、大いに期待することができる。そのため、(仮称)道の駅しろいし整備事業は、地域間・政策間連携を可能とするために次の機能を備えた施設整備を民間の資金と経営能力を活用したPFIによる一体的な整備を行い、課題解決に向けて取り組むものである。

#### 【情報発信施設】

・白石城や武家屋敷旧小関家などの文化財、鎌先温泉と小原温泉、白石湯沢温泉の3つの温泉地、その他の観光名所やイベント情報をはじめとした本市の魅力ある地域資源による市内観光周遊と合わせ、県内や南東北などの主要観光地への周遊を促進するパッケージツアーなどの案内・誘導機能を設けるとともに、SNSなどを積極的に活用した情報発信を行う。

・道路利用者へ渋滞・規制・ルートなどの道路交通情報を提供するため、24時間利用可能な道路情報提供コーナーなどの情報発信機能を設けるとともに、情報発信機器は、高齢者や外国人など、誰にでも使いやすく分かりやすいものとする。また、「南東北のへそ」、「県南の玄関口」の道の駅、観光交流拠点として、地域と連携した観光情報サービスを導入する。

・道路利用者の安全・快適な道路交通環境を提供するため、24時間無料で利用できる駐車場やトイレなどの休憩機能を設ける。駐車場には、電気自動車への対応のため、電気自動車急速充電器を設置し、将来的な需要増にも柔軟に対応できるよう増設スペースの確保も検討する。

#### 【飲食・物品販売施設】※本交付金を活用して整備

・本市や宮城県南部を中心とする近隣市町村における特産品の取扱いを行うことで、地元野菜や果物、惣菜などの加工品、酒類、特産品、工芸品を販売し、見て、聞いて、触って、食べて、体験を楽しむことができるマルシェのような賑わいを創出する。

・本市のシンボルで市民の誇りである白石城は、国内で木造による復元天守5城のうちの1城であり、財団法人日本城郭協会が選定する「続日本100名城」に選定される大変貴重な城である。甲冑試着などの侍体験や、戦国時代と本市の歴史に触れることができる場を白石城において提供するとともに、道の駅においても甲冑展示などを実施することで歴史を切り口とした観光をPRする。

・全日本こけしコンクールが開催される本市は伝統こけし「弥治郎系」の産地である。こけしの絵付け体験やコンクール受賞作品の展示を行うなど、文化体験や伝統産業に触れる機会をホワイトキューブや弥治郎こけし村において提供するとともに、道の駅においてもこけしの販売を実施するなど伝統産業をPRする。

・飲食の提供では、平成元年度に民間調査機関の食味調査で日本一を獲得し、第6回全国ササニシキ系「ささ王」決定戦2022では金ささ賞を受賞するなど、本市のブランド米「ササニシキ」や白いトウモロコシ「ピュアホワイト」などの高品質な農産物を活用した食の提供のほか、「あさつき」などの在来作物、「ささ巻」などの伝統食、「冬至カボチャ」などの季節食、さらには約400年ほど前の江戸時代から食され、文化庁の100年フードの認定を受けた日本一短いそうめん「白石温麺(うーめん)」など、地域の食(和食)も取り入れた食の提供を行い、積極的に地場産品を活用し、本市を訪れる観光客に食材や食文化を紹介することで、観光地としての付加価値を高めていく。また、白石市農産物等販売施設「おもしろいし市場」などと連携を図り、6次産業化による新たな加工品開発や販路拡大などに取り組む。

・歴史や伝統産業、地元食材への理解を深め、同時に整備する広場、子育て支援施設、近接する公園施設との連携を図ることで、地域への愛着を醸成する機会を生むきっかけとなり、また来たくなる、長時間滞在したくなる、いつでも楽しんでいただけることが期待できる。

・本施設は(仮称)白石中央スマートインターチェンジに連結しており、主要観光地点への拠点となることから、集客力の低さが課題となっている白石城との連携を進め、周遊してもらえるモデルコースを作成する。具体的には、インバウンド需要を獲得するため、令和2年に訪日観光客を含め15万人もの観光客が訪れる宮城蔵王キツネ村からの市内観光施設への誘客や市内で開催されるイベントとの連携など、訪れるきっかけとなるよう意識啓蒙を図るとともに、白石市観光協会が推奨するモデルコースに本施設を出発点として加えるなど、本市の特色を活かした観光コンテンツをめぐるモデルコースの作成と白石市観光協会のホームページでの周知を進める。また、季節ごとの情報発信を強化し、特に春においては白石城の桜のほか、インバウンドにも人気がある宮城県南部の柴田町・大河原町の一目千本桜や蔵王町のエコーライン雪の回廊、角田市の菜の花など、様々な観光名所が存在することから、季節ごとにおける広域周遊ルートの作成を行う。

#### 【道の駅広場・子育て支援施設】

・交流・地域活動機能として道の駅が継続していくため、定期的なイベントなどを開催

し、人が集い、楽しみ、交流することができるよう、交流・地域活動機能を設ける。

・子育て支援機能として、本市は、安心して子どもを産み育てる環境づくりに向けて、妊娠・出産期からの包括的な支援の充実を図っている。また、移住・定住を促進するため、各種情報提供の充実や生活体験機会の提供、暮らす人々の生活やヒストリーの紹介を通じて暮らしの魅力を発信するとともに、シビックプライドの醸成を図る取り組みを推進している。計画地の立地性を生かし、魅力的な施設とすることで、市内の子育て世代はもとより、市外からも行楽の目的地として大勢の家族連れが集まることが期待される。そこで、広く子育て世代を応援するため、子どもから大人まで楽しめる屋外施設などを導入し、親子が安心して集える子育て支援機能を検討する。また、白石市子育て支援・多世代交流複合施設「こじゅうろうキッズランド」などと連携を図り、体験型イベントやワークショップなどの共同企画を検討する。

#### 【防災公園（スポーツレクリエーション施設）】

・健康増進機能として、スポーツを通じた交流やつながりは、地域づくりを推進していく上で大きな役割を果たし、幅広い参加を促進するため、道の駅の賑わいの創出、また、設定している道の駅の利用者（市民・道路利用者・道の駅計画地に隣接する工業団地の関係者）に魅力のある施設とするため、健康増進施設の併設を検討する。

・健康志向の高まりを背景としたサイクリング人気を考慮し、通常の自転車とあわせてスポーツタイプの自転車などにも対応可能な駐輪施設の設置を検討する。

#### 【バス待合室】

・国道4号と（仮称）白石中央スマートインターチェンジに直結する立地を活かし、容易に高速バスと結節を図ることを想定して、道の駅への公共交通機関アクセスの向上を図り、バス停設置などの交通機能を設ける。

#### 【防災拠点機能】

・東日本大震災をはじめとした大規模災害の教訓や事例を踏まえ、災害時には道の駅が防災拠点機能を果たすことが求められている。道の駅は、災害発生時の緊急避難対応の段階においては、道路利用者・周辺住民の一時的な避難場所や車中泊などの場所として利用されることが想定される。一方で、広大な面積を有効活用することを目的に、平時・災害時を問わない機能が必要なため、スポーツ・レクリエーション機能を併せ持つ防災公園として整備する。なお、道の駅北側隣接地に防災関連施設整備を整備し、これらの施設との連携強化による災害発生時の迅速な対応など、防災拠点機能の一層の充実を図る。

### ④ 事業が先導的であると認められる理由

#### 【自立性】

・施設の効率的・効果的な運営を行うため、PFI事業者が施設の設計・建設、施設の維持管理・運営するBT0方式を採用することから、工事期間の短縮や施設整備費及び運営管理費の削減を実現できるものである。

・PFI事業として実施することで、民間企業のノウハウを活用することによるデジタル化及び高い技術力を有する民間ならではの質の高いサービスを観光客をはじめとした本市に関心のある皆様に提供するとともに、地域住民の利用による地元消費の増加や、より多くの交流人口や関係人口の拡大に向けた取り組みを進めていく。

・（仮称）道の駅しろいしは、PFI事業者が指定管理者となり、飲食・物品販売施設をはじめ防災公園などの施設の利活用とイベントなどの各種自主提案事業による事業収入により自立運営を行っていく。

・また、毎年売上の1%以上を市に対し納付することとしており、基金として積み立てを行い、道の駅関連施設の改修などに対応することで、市側も持続可能な財政運営を行っていく。

・要求水準を満たしていることを確認するため、事業者のセルフモニタリングに加えて、市もモニタリングを行うことで、施設の状態を良好に保ち、利用者が安全・快適に利用できる水準を保つことを目的に実施する。

・県内及び隣県で賑わいを見せる道の駅では、約100万人の年間利用者数を達成しているため（宮城県大崎市：あ・ら・伊達な道の駅約273万人、同石巻市：道の駅上品の郷約127万人、同角田市：道の駅かくだ約86万人、同村田町：道の駅「村田」約18万人、福島県伊達市：道の駅伊達の郷りょうぜん約140万人、同二本松市：道の駅「安達」上り線約61万人）、2027年度（開業1年目）の年間利用者数を100万人としている。

・なお、本申請施設以外の維持管理費及び運營業務費は、15年間で総額1,871,580千円（1

年当たり124,772千円)を見込んでおり、この額を指定管理委託料として支出する見込みである。

## 【官民協働】

### 【PFI事業】

- ・本事業は、PFI法の手続きに則り民間事業者を選定し、本市が所有する敷地にPFI事業者が施設の設計・建設を行い、施設の完成後に所有権を本市に譲渡し、PFI事業者が事業期間にわたって施設を維持管理・運営するBT0方式を採用し進めていく。
- ・PFI事業として実施することで、建設から運営、維持管理を全て1つの事業者が発注し、工事期間の短縮や施設整備費、運営管理費の削減を実現できるものである。さらに、民間企業のノウハウを活用することによるデジタル化及び高い技術力を有する民間ならではの質の高いサービスを観光客をはじめとした本市に関心のある皆様に提供するとともに、地域住民の利用による地元消費の増加や、より多くの交流人口や関係人口の拡大に向けた取り組みを進めていく。

### 【事業者の役割】

- ・(仮称)道の駅しろいしの施設整備及び運営は、PFI事業者が事業期間にわたって施設を維持管理・運営するBT0方式で進め、民間の力を活かし、効率的かつ効果的な施設整備及び運営を行う。
- ・「しろいしの魅力発信・地域と文化の交流による新たな価値を創造する地域防災拠点」の実現には、農産物直売所、特産品販売所、飲食施設などの個別の事業だけでなく、本施設の事業育成と事業継続の両面において推進していく管理運営体制が必要であることから、本施設の運営主体を中心として、市、道路管理者、テナント業者、農家といった多様な利害関係者が参加する(仮称)道の駅しろいし運営協議会を立ち上げ、さらに本施設と防災公園、公共交通機関、市内の既存施設などと連携していくことで、一体的な推進体制を構築する。

### 【観光事業者との連携】

- ・(仮称)道の駅しろいしのコンセプトである「しろいしの魅力発信・地域と文化の交流による新たな価値を創造する地域防災拠点」の実現に向けて、「地域交流」や「地産地消」をキーワードとした、地域振興の方策や地域素材の活用の方針について関係者協議会による意見交換を行い、交流人口や関係人口の拡大や地元名産品を活用した集客の目玉となるメニューの開発、農産物のPRとブランド化、人材育成などに取り組む。

### 【商店街との連携】

- ・商店街では春まつりや夏まつり、また、豪商の町屋建築として商店街の中心に位置する壽丸(すまる)屋敷では、白石和紙を使用した工芸品や手作り甲冑の展示会など、各種イベントを定期的で開催していることから、本施設のイベントとコラボして開催する。

### 【農家との連携】

- ・地域の農産物や食文化の理解を促すため、生産者の顔が見える販売手法を採るなど、生産者との連携を密にし、地産地消が推進されることで地域経済の循環を推進していく。

### 【民間事業者との連携】

- ・本市はダイドードリンコ株式会社と「子育て支援の推進に関する連携協定」を締結しており、協定に基づき設置される子育て応援自動販売機の売上収益の一部について、ダイドードリンコ株式会社と自販機の設置管理者の2者から寄付を受けている。この仕組みを本施設にも採用することで、設置管理者(PFI事業者)の収入増と本市への寄付金増につながるのと同時に、寄付金を活用し、子育て世代を呼び込むための施策へとつなげることができる。
- ・飲料とともにベビー用紙おむつやおしりふきも子育て応援自動販売機で購入できるようにし、子育て世代が安心して観光できる環境をつくることで、観光客の増加、滞在時間の延長、観光消費額の増加、観光地としての魅力向上と満足度向上へとつなげることができる。

### 【関係機関との連携】

- ・関係機関による関係者協議会を、PFI事業者、市、白石商工会議所、白石市観光協会、みやぎ仙南農業協同組合、しろいしサンパーク運営協議会などにおいて設置し、本施設をPRし観光誘客につなげるとともに、市内の観光案内やイベント情報の発信など、総合的な情報案内施設としての機能を発揮し、地域情報の発信を行う。
- ・一般社団法人全国道の駅連絡会に参加することで、最新の道の駅の情報や集客・経営手

法などを入手するとともに、スタンプラリーや集客イベントなどの相互連携を図り、道の駅の質の確保と向上を図る。

**【白石市スポーツ協会や白石市文化体育振興財団との連携】**

・白石市スポーツ協会や白石市文化体育振興財団と連携し、サッカーなどのフィールドスポーツなどの大会、イベントの開催誘致や支援を行うことで、交流人口や関係人口の拡大を図っていく。また、大会参加者に市内観光施設への誘導や周遊ルート形成による案内を行うことで、地域の滞在時間を伸ばし、観光消費額の増加へとつなげることができる。

**【自治体の役割】**

・本施設で設置する売店や軽食コーナーにおいて、行政が持つ地元生産者や商工業者などの事業者情報を活用し、一次産品や工芸品などの販売促進や事業者間で交流を図れるよう支援を行っていく。  
・各関係機関や各種団体との調整、助言、指導などの役割を担っていく。また、各種イベントなどにおける連携策の検討を進め、観光消費額の増加に努めていく。

**【地域間連携】**

**【近隣施設（道の駅）との連携】**

・近隣自治体に設置している道の駅（角田市・七ヶ宿町・村田町・福島県福島市・国見町・山形県山形市・米沢市・高島町）と連携した東北道の駅スタンプラリーに参加することで人の流れを誘発する。  
近隣自治体のほか、隣接県の自治体と相互に観光情報などを発信することで人の流れを誘発する。  
・農水産物や加工品などを相互に販売することにより、商品の充実を図るとともに、出荷者などの販売機会の創出を図り、出荷者などの所得向上を図る。

**【宮城県南部市町村、福島、山形との連携】**

・本市と隣接する蔵王町、七ヶ宿町、川崎町を合わせた蔵王地区と角田市、丸森町、柴田町、大河原町、村田町を加えた宮城県南部における観光振興の分野において連携し、（仮称）道の駅しろいしを含む観光情報の発信や周遊ルートの形成を進めていく。さらには、南東北3県（宮城県・福島県・山形県）の各県庁所在地から約1時間以内というポジションを最大限生かすため、広域的な周遊ルートの形成も進めていくことで、これら圏域全体での観光消費額を高め、地域経済の活性化を図っていく。

**【ふくしま田園中枢都市圏との連携】**

・本市は、福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、飯館村で組織するふくしま田園中枢都市圏に米沢市、福島県北地方振興局とともにオブザーバーとして参加しており、ふくしま田園中枢都市圏の推進及び広域的な連携を行っている。  
・ふくしま田園中枢都市圏構成自治体でLINE公式アカウント「あそびばみっけ！」を令和6年3月から運営しており、友だち総数は令和6年5月末で約2,600人まで増加している。本市の屋内遊び場「こじゅうろうキッズランド」の施設情報もアカウント開設時から掲載しており、友だち総数約2,600人のうち、こじゅうろうキッズランドのタグを設定している友だち数が約800人まで増加するなど、圏域内にある屋内外の遊び場の周知・周遊に寄与している。今後、本施設内の道の駅広場・子育て支援施設も掲載するとともに、「こじゅうろうキッズランド」との連携による体験イベントやワークショップなどの共同企画を開催することで、圏域内の子育て世代の周遊を促す。

**【姉妹都市との連携】**

・本市の姉妹都市として、北海道登別市、神奈川県海老名市があり、お互いの市が季節ごとに主催するまつりにおいて、商品販売を通じ、各市のPRを行っている。  
・本施設は、宮城県内はもとより、特に南東北から観光客が多く訪れることが想定される

ため、姉妹都市の特産品などを販売及び展示を行うことで、観光客の誘客促進、姉妹都市との交流促進にもつながり、これまで以上にお互いの地域経済の活性化を図ることができる。

#### 【仙台市との連携】

・仙台市では戦国武将をモチーフにした奥州・仙台おもてなし集団伊達武将隊が活動しており、本市の鬼小十郎まつりをはじめとした白石城のイベントへの出演やSNSでの情報発信により、観光PRを連携して実施することで、観光客の誘客促進を図ることができる。

#### 【政策・施策間連携】

##### 【観光イベントとの連携】

・交流人口や関係人口の滞在時間延長を図るため、毎年5月に開催される「全日本こけしコンクール」や9月に開催される「しろいし蔵王高原マラソン大会」、10月に開催される「鬼小十郎まつり」、さらには12月下旬からオープンする「白石スキー場」などと、定期的に開催される周遊のきっかけとなる各種イベントと連携を図ることで、消費拡大や地域の活性化につなげていく。

##### 【農業との連携】

・観光イベントに生産者などが積極的に参加することで、地域の魅力発信を行うだけでなく、(仮称)道の駅しろいしでの販売や地元食材を使った飲食の提供により、白石ファンの獲得を進めていく。  
・また、ふるさと納税の返礼品として取り扱っている商品や食材を販売することで、その魅力を伝え、ふるさと納税の寄附額向上を目指す。  
・以上の取り組みを実施することで、地元農産物のPRにつながるとともに、低迷している農産品出荷額の向上を見込める。

##### 【子育て支援事業との連携】

・子育て世代が子どもを産み育てたくなる社会の醸成を目指した「白石市ベビーファースト活動宣言」に基づき、おむつ交換や授乳ができるスペースを周知するため「しろいし赤ちゃんの駅」に登録し、子育て支援事業との連携を深めた施設運営を行っていく。

##### 【公共交通との連携】

・本市が事業を行う公共交通(白石市民バス)との連携を行うことで、白石城を始めとした観光施設や中心市街地とのアクセスができることから、観光客の滞在時間を伸ばすことで、観光消費額の増加へとつなげることができる。

##### 【環境活動の強化】

・利用状況や市民の要望などを踏まえながら、民間バス路線の再編に合わせ、(仮称)道の駅しろいし内にバス停を設置するとともに、循環型社会への転換やSDGs、ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、電気自動車急速充電器の設置や電動バスの導入、蓄電設備の設置検討を行う。

##### 【防災対策の強化】

・災害時には、(仮称)道の駅しろいしが防災拠点機能を果たすことが求められており、道路利用者・周辺住民の一時避難場所や車中泊などの場所として利用されることが想定される。本施設の北側接地に防災関連施設が整備されることから、これらの施設と連携し、避難場所として開放することや炊き出しを行うことで、道路利用者・周辺住民の安全・安心を確保する。  
・防災関連施設に加えて、水タンク20t受水槽、食料やパーテーションなどの備蓄品、非常用電源を設置する。  
・(仮称)道の駅しろいしは、広域的な防災機能を担うための「防災道の駅」として位置づけられていることから、災害時における様々な支援を行う必要がある。本施設が一時避難所としても活用を図ることができるよう、防災備品の配備、避難所としての周知、訓練への参加といった取組を進めていく。

## 【デジタル社会の形成への寄与】

### 内容①

- ・全国道の駅連絡会や各地区ブロック連絡会と連携し、道の駅や観光スポットを巡るデジタルスタンプラリーを開催し、交流人口や関係人口の拡大と地域経済の活性化を図る。
- ・観光地としての魅力向上と周遊性の向上を図るため、ふくしま田園中枢都市圏と連携し、道の駅や観光スポットを巡るデジタルスタンプラリー「ふくしま広域デジタルラリー」の開催や公式LINEアカウント「あそびばみっけ！」を活用した本施設情報の電子ブックでの掲載及びイベント情報の配信を行う。

### 理由①

- ・「南東北のへそ」、「県南の玄関口」の道の駅、観光交流拠点として、近隣自治体と連携した取り組みが必要である。
- ・本市や近隣自治体の文化財、温泉地、その他の観光名所やイベント情報をはじめとした魅力ある地域資源による観光周遊の促進が必要である。
- ・ふくしま田園中枢都市圏と連携した広域的な取り組みを行うことにより、「南東北のへそ」、「県南の玄関口」の道の駅、観光交流拠点として、新たな周遊ルートの形成や魅力向上につながる。

### 内容②

- ・施設内にPOSシステムを導入し、消費者の購買行動を分析し、PFI事業者における仕入れや売り場づくりでの活用、自主提案事業の企画立案など、デジタルマーケティングに取り組む。

### 理由②

- ・レジデータの分析から顧客ニーズを把握し、仕入れや販路開拓、商品開発における活用、イベントなどの企画など、本市の観光地としての認知度向上と付加価値を高めていく。

### 内容③

- ・施設利用者が使用可能な公衆Wi-Fiを整備することで、国内外の観光客の交流拠点としての利便性を高める。

### 理由③

- ・スマートフォン利用が全世代に浸透し、観光地の行き先について調べたり、スマートフォンを通じてSNSなどに写真や動画をアップロードするなど、あらゆる場面でインターネットを活用することが想定されるため、公衆Wi-Fiを導入することにより、快適なインターネット環境を提供するとともに、公衆Wi-Fi接続時に観光施設の案内を行う。

## ⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

## ⑥ 評価の方法、時期及び体制

### 【検証時期】

毎年度 9 月

### 【検証方法】

「白石市総合計画・総合戦略推進委員会」において、本事業のKPI達成度の検証についても実施し、本事業の見直し・改善や新たな事業の企画立案に反映させるなど、PDCAサイクルによる進捗管理を行う。

また、本事業では、PFI事業者が事業契約書に定められた業務を確実に遂行し、かつ、要求水準書及びPFI事業者が提案するサービス水準を満たしていることを確認するため、モニタリングを実施することとしており、モニタリングの内容は、全体協議会（市とPFI事業者により構成）及び運営連絡会（市、PFI事業者、商工会議所、JAなどにより構成）内部で共有する。

#### 【外部組織の参画者】

産業、教育、金融、労働団体、メディア、土業、議会、学識経験、地域組織、子育ての分野から白石市長が委嘱した委員25名以内（R6.6.1現在19名）

#### 【検証結果の公表の方法】

白石市公式ホームページ、広報しろいし

#### ⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3016】

総事業費 621,870 千円

#### ⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日 から 2029 年 3 月 31 日 まで

#### ⑨ その他必要な事項

特になし。

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 各種イベント事業

###### ア 事業概要

・ 毎年5月に全日本こけしコンクール、9月にしろいし蔵王高原マラソン大会、10月には鬼小十郎まつりなどの各種イベントを開催しており、白石城をはじめとする地域・観光資源を活用し、地域活性化、交流・関係人口の拡大を図るものである。

###### イ 事業実施主体

宮城県白石市

###### ウ 事業実施期間

2024 年 4 月 1 日から2029 年 3 月 31 日 まで

##### (2) 子育て支援サブサイト構築とSNS情報発信強化事業

###### ア 事業概要

・ 本市では、広範にわたる子育て支援に関する情報を効果的に発信するため、現行の白石市子育て支援サブサイトを開設しているが、現行サイトは、時代のニーズにあった目的別に情報を得やすい環境になっておらず、さらに、階層が深いことが課題となっているため、現行サイトをより見やすく、使いやすいサイトにリニューアルを行い、市の子育て支援に関する情報を市内外へ効果的に発信し、シビックプライドの醸成や認知度の向上を図ることで、転出抑制や定住促進につなげるものである。

・ また、市公式SNSとして、Facebook、YouTube、LINE、Instagramのアカウントを開設し、市政情報などを中心に情報発信を行っているが、明確な課題の抽出や対策、効果的な運用方法を確立できていないことが課題となっているため、市公式Instagramの運用代行（保守・運用）を行い、フォロワーの増加を図るための企画などの立案・実施、また、自走出来る体制構築を図るとともに、特に子育て世代の方々に向けて、市の子育て支援情報をはじめとした市の魅力を発信していくことで、市の認知度向上を図るものである。

###### イ 事業実施主体

宮城県白石市

#### ウ 事業実施期間

2024年4月1日から2029年3月31日まで

#### (3)ふるさと納税推進事業

#### ア 事業概要

・「ふるさとを応援したい」、「ふるさとのために何かしたい」、「ふるさとを守りたい」という本市への応援に対する感謝の気持ちを込めて、市内事業者が提供する地元特産品や、交流人口及び関係人口を増やし、地域経済活性化のきっかけとなる体験型返礼品の提供を行っている。

#### イ 事業実施主体

宮城県白石市

#### ウ 事業実施期間

2024年4月1日から2029年3月31日まで

### 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2029年3月31日まで

### 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

#### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

#### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

#### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。